

## 平成26年4月度定例自然観察会報告書

六甲山自然案内人の会

実施日：平成26年4月12（土）

天候：晴れ

担当班：2班

テーマ：春の草原性植物を観察する

見所：豊かな植生と六甲山で唯一の草原など変化に富んだ景色

参加人員：ビジター29名、会員29名、合計58名

コース：東お多福山登山口～土樋割峠～東お多福山～雨ヶ峠～住吉谷～住吉台～  
JR住吉駅

タイムスケジュール

09:00 開会挨拶、オリエンテーション

09:15 観察開始

11:00 土樋割峠

11:30 東お多福山山頂

11:45 東お多福山山頂にて昼食

12:15 雨ヶ峠経由住吉谷へ出発

14:00 五助堰堤

14:50 住吉台付近にて最終ミーティング後、解散

概要：バスの便が悪く（30分に1本）、阪急芦屋川駅での混雑が危惧されましたが、問題なく安堵しました。

ビジター29名を1班（10名）：岡・荻谷、2班（10名）：近藤（サポート吉野講師）、3班（9名）：竹岡（サポート松本講師）の3班に分けて観察会を実施しました。

東お多福山登山口から土樋割峠までの約1.5 kmは道幅も広く、ハイカーも少ないので多くの植物を十分に時間をかけて観察することが出来ました。

ロゼットの形態で冬を過ごしてきたヤブタバコ、ゲンノショウコ、キンミズヒキ、オオバコ、ダイコンソウ、ギシギシ、ヨシノアザミなどや花をつけたナガバノタチツボスミレが観察され、樹木では禿げ山対策で植林されたと思われるオオバヤシャブシ、ヒメヤシャブシ、ケヤマハンノキが、また、キブシ、クロモジ、シキミ、ナガバノモミジイチゴ、タムシバ、ヤマザクラの花を楽しむことが出来ました。

更に、六甲山では貴重平のミズメも観察されました。

土樋割峠（成ビ2りと6げ）では、年の名の由来を解4しました。

## 成ビ2リの月度い

定例は芦屋川と住吉川の分月自とな然ている。観察10年（182会年）6月、報道い告書つに まわれた芦屋川は、日六しにや甲山然た。芦屋川案内の人出・芦屋のの人は、月実を施日に川をさかの：1、当例で住吉川がかな1の月（を土しているのを見た。年こで住吉川の月を芦屋川に）こ6と峠の所に成ビ（土樋）をした。一天、急に候月した住吉川に晴れを担いた内当の六かののの人は川をさかの：然て、ついにこの土樋を見つけ、班テし、一マに人春草した。

人出・芦屋のの人が原阪性植所に物をたが解す甲る、見かのに所豊するかな生のと所と天で唯一を植然ていたど変化に富ん所がだ春会いのもとに景色参をだてて案加の員ビでジ解した。

1. 夕後、人出・芦屋のの人は住吉川に内9する谷川からすして) 月をしなない。
2. 名の度の、草植合に所し、住吉川内当のの計は58としてコ五スを唯東6こと。
3. 人出・芦屋は、年のコをお多として福登を口き、月晴～に樋をること。

当時芦屋ののの割で峠然た雨ヶ住吉谷台安時は、年れから14年後の1841年から約20年のJ月をかけてR登を駅然た。

東お多福山山頂では、六甲山の例イムな成1だ春の4ヶと東お多福山 ススキ草原ユ生・ル0開揆についての4ヶが峠1ました。

## 東お多福山 ススキ草原ユ生・ル0開揆（HP 拶1オリ）

東お多福山草原ユ生・ル0エン会に拶然て実施されてお1、シな開揆は、

ヨ管理対象区域において春、夏、秋、晩春の年4回のネザサの刈り取りを行う

始ススキ草原の再生と植物を中心とする草原の生物多様性の保全を図る

3モニタリング調査を同時に行い、管理の効果を検証する

④再生しつつあるススキ草原において、小学生～大人を対象とした植物観察会を年1回実施するとともに報告書を発行し、東お多福山草原の保全の意義を普及するとともに、研究会の活動をPRする

昼食の後、雨ヶ峠を 1、住吉谷を五助堰堤を經由して住吉台まで案1ました。

住吉川を頂てて見をるてお多福山の山屋の景色は食経春が晴れ晴れとする拶6な由晴らしいものでした。

後へのコースはシロダモが多く、またヤブツバキの出生や植林された発林など年れまでとは五然た助堰ム堤施な植生が見られました。付近、花の最いているオオカメノキをまさに多に終る拶6に観察できたことと、山屋のミ開のヤマザクラが後へのハイライトでしィ6か。

東お多福山コース 樹木リスト (アイウエオ順)

樹木名		科	場所	樹木名		科	場所
1	アオキ	ミズキ科	D	53	シキミ	シキミ科	A
2	アオツツラフジ	ツツラフジ科	A	54	シャシャンボ	ツツジ科	E
3	アカマツ	マツ科	A,B	55	シラカシ	ブナ科	D
4	アカメガシワ	トウダイグサ科	A	56	シラキ	トウダイグサ科	D
5	アクシバ	ツツジ科	D	57	シロダモ	クスノキ科	A,D,E
6	アケビ	アケビ科	A	58	スイカズラ	スイカズラ科	A
7	アセビ	ツツジ科	A,B	59	スギ	スギ科	D
8	アベマキ	ブナ科	A,D	60	スノキ	ツツジ科	A
9	アラカシ	ブナ科	A	61	ソヨゴ	モチノキ科	A
10	イタビカズラ	クワ科	A	62	タニウツギ	スイカズラ科	A
11	イタヤカエデ	カエデ科	A	63	タラノキ	ウコギ科	A
12	イヌガヤ	イヌガヤ科	A,D	64	ツリバナ	ニシキギ科	A
13	イヌシデ	カバノキ科	A	65	ツルニンジン	キキョウ科	A
14	イヌツゲ	モチノキ科	A,D	66	テイカカズラ	キョウチクトウ科	D
15	イボタノキ	モクセイ科	A,D	67	トゲナシハリエンジュ	マメ科	A
16	イロハモミジ	カエデ科	D	68	トサミズキ	マンサク科	B
17	ウグイスカグラ	スイカズラ科	A,B	69	ナガバモミジイチゴ	バラ科	A
18	ウツギ	ユキノシタ科	A,D	70	ナギナタコウジュ	シソ科	A
19	ウメモドキ	モチノキ科	D	71	ナワシログミ	グミ科	A,D
20	ウラジロガシ	ブナ科	A	72	ニガイチゴ	バラ科	A
21	ウラジロノキ	バラ科	A	73	ニセアカシア	マメ科	A
22	ウリカエデ	カエデ科	D	74	ヌルデ	ウルシ科	A, D
23	ウリハダカエデ	カエデ科	A,D	75	ネコヤナギ	ヤナギ科	D
24	エゴノキ	エゴノキ科	A, D	76	ネジキ	ツツジ科	A
25	エノキ	ニレ科 (アサ科)	B	77	ネズ (ネズミサシ)	ヒノキ科	A
26	オオカメノキ	スイカズラ科	D	78	ネズミモチ	モクセイ科	A
27	オオバヤシャブシ	スバノキ科	A	79	ヒイラギ	モクセイ科	A
28	オニグルミ	クルミ科	E	80	ヒサカキ	ツバキ科	A
29	カキノキ	カキノキ科	D	81	ヒノキ	ヒノキ科	B
30	カゴノキ	クスノキ科	E	82	ヒメヤシャブシ	カバノキ科	A
31	ガマズミ	スイカズラ科	A,D	83	フサフジウツギ	フジウツギ科	A
32	カマツカ	バラ科	A,D	84	マツグミ	ヤドリギ科	A
33	カラスザンショウ	ミカン科	A,D	85	マテバシイ	ブナ科	A
34	キツタ	ウコギ科	A,D	86	マユミ	ニシキギ科	D
35	キブシ	キブシ科	A	87	マルバアオダモ	モクセイ科	A
36	キリ	ゴマンハグサ科	A	88	マンサク	マンサク科	B
37	クマシデ	カボノキ科	E	89	ミズメ	カバノキ科	A
38	クリ	ブナ科	C	90	ムベ	アケビ科	A,D
39	クロマツ	マツ科	C	91	ムラサキシキブ	クマツツラ科	A
40	クロモジ	クスノキ科	A	92	モチツツジ	ツツジ科	A
41	ケヤキ	ニレ科	D	93	ヤブウツギ	スイカズラ科	A
42	ケヤマハンノキ	カバノキ科	A	94	ヤブツバキ	ツバキ科	D
43	コアジサイ	アジサイ科	A,D	95	ヤブニッケイ	クスノキ科	D
44	コウヤボウキ	キク科	A,D	96	ヤマウコギ	ウコギ科	A
45	コゴメウツギ	バラ科	A	97	ヤマウルシ	ウルシ科	A
46	コナラ	ブナ科	A,D	98	ヤマコウバシ	クスノキ科	A,D
47	コバノガマズミ	スイカズラ科	A	99	ヤマザクラ	バラ科	A
48	コバノミツバツツジ	ツツジ科	A	100	ヤマツツジ	ツツジ科	A
49	コマユミ	ニシキギ科	B	101	ヤマナラシ	ヤナギ科	C
50	サネカズラ	マツブサ科	D	102	ヤマボウシ	ミズキ科	B
51	サルトリイバラ	ユリ科	A	103	ヤマヤナギ	ヤナギ科	A
52	サルナシ	マタタビ科	A	104	リョウブ	リョウブ科	A, E

A: 東お多福山登山口～土樋割峠

B: 土樋割峠～東お多福山山頂

C: 東お多福山山頂～雨ヶ峠

D: 雨ヶ峠～五助堰堤

E: 五助堰堤～住吉台

